＜注＞

① 測量図参照

② 正福寺住職の話によると、昔寺の屋敷内に小社があり、そこを開墾すると土器が沢山出土したとの事である。

③ 筆者注

④ 『古代吉備品治国の古墳について』
広島県立府中高等学校地歴部
—昭和42年—

⑤ 児玉光正氏によると、以前正福寺1号墳に[1]、合の坪前方後円墳に[2]、さらにその東側、倉神社の真上の位置の平坦地に[3]という札があったという。そこも古墳の可能性が残されている様である。

（引野町2—328）

備南中世山城跡の現状 I

1973年7月

我々は1972年2月から1年間にわたって福山市内の主要山城跡の現状と保存状態に関する調査を行なってきた。以下はその報告である。この報告が地方史研究の一助になればと思っている。猶、調査器材は巻尺を使用し、1000分の1略測図を作成した。

≪本編収録城跡及び調査日時≫

1. 大場山城跡　1972年2月27日
2. 別所城跡　1973年3月22日
3. 甲谷城跡　1972年4月　2日
4. 銀山城跡　1972年3月21日

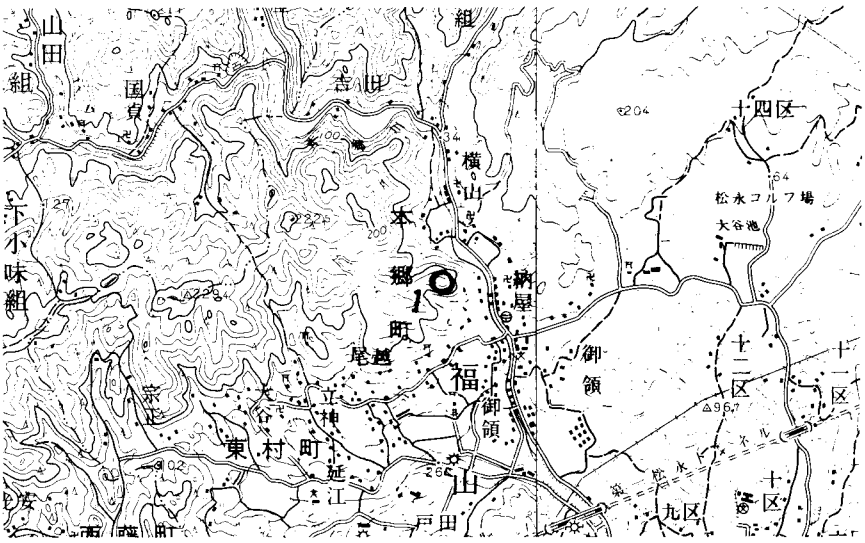
福山ユースドマップクラブ

田口義之　盈進高校3年
岡内譲二　福山工業高校3年
七森博明　近大附属福山高校3年
関戸和典　　同　上
猪原　進　盈進高校3年
松本信二　県立松永高校3年
柏原正尚　盈進高校3年
村上誠之　　同　上
三島吉晴　　同　上
（顧問）
神谷和孝　近大附属福山高校教諭

1. 大場山城跡（図１）

《所在地》　福山市本郷町

※図は9. 10ページ



地図①　大場山城跡附近（1：5万尾道・福山）

又、この附近に城下からの登山道が達していた様子である。二の丸との高低差は２.８ｍ。

ホ　三の丸　帯郭Ｂの東側に高低差１ｍで接している、東西１８ｍ、南北３３ｍの長方形の平坦地で、中央よりやや北西に井戸跡が存在する。

(1)　現　状

城山と呼ばれる海抜１５２ｍの山上に５段の平坦地が存在する。

イ　本丸（仮称、以下同じ）山頂に位置する東西８８ｍ、南北１２～１８ｍの平坦地。西端に高さ３ｍ、巾５ｍ（底面）の土塁が存在する。又、東面及び北西と南面の一部には石塁が遺存している。石塁の状態はきわめて良好であるが、石は直径２０cm位の小さいものである。他に土塁から東へ１７ｍの所に径３ｍ位の巨岩が露出し、岩と土塁との間に小さな池がある（城の用水か）。

ロ　帯郭Ａ　本丸の北側に接して長さ５８ｍにわたって巾１０ｍ～４ｍの平坦地が存在する。今その仮称を帯郭Ａとする。

ハ　二の丸　本丸の東側に一段下って存在する、東西８ｍ、南北１５.５ｍの平坦地。東側の一部に石塁が残存している。なお、この平坦地は北西端で帯郭Ａとつながっている。本丸との高低差は３.８ｍである。

ニ　帯郭Ｂ　二の丸の北側から南側にかけて存在する長さ３５ｍ、巾８～３ｍの細長い平坦地。帯郭Ａとは傾斜面でつながっている。

ヘ　東の丸　三の丸の東北に高低差１０ｍをへて、西北・南東２１ｍ、東北・南西９ｍの平坦地がある。この平坦地は南北両端が空堀によって画されており、その北側のものはその底を通路として利用したと思われ、巾４ｍを計る。この空堀底の道は上述した帯郭傾斜面につながるものと考えられる。

ト　登城道、本丸北端の城門跡と考えられる所から、上述のように帯郭傾斜面を通り、三の丸北端の空堀底を通って城下大手に通じていたものと思われる。しかし、三の丸附近より下は判然としない。なお、現在の登山道は戦時中、山上を開墾した時に作られたものである。

(2)　保存状態

きわめて良好であり、中世山城の形状を良く残している。史跡指定が望まれる。

(3)　城　主

室町、戦国時代、在地豪族の古志氏が居城したと伝える。

◎　城跡に関連する文書

『毛利興元感状』（西備名区所収）

九月十日備後國古志城切崩　抽戦功候神妙之至也　仍為後証　感状如件

永正九年（1512）

九月十六日　　興元（花押）

福原宗左衛門尉殿

※　古志城…大場山城を指すと思われる。古志氏が居城したため、当時そう呼ばれたのであろう。

2. 別所城跡（図2）

《所在地》　福山市瀬戸町

(1)　現　状

瀬戸池の西方500mに位置する標高89mの小山を利用した山城跡で、城の要部は山頂を中心に南北方向3つの部分に分けることができる。猶、我々が略測したのは中央部分（中の丸）だけである。

イ　中の丸　標高89mの山頂に位置し、山頂の東西53m、巾20～12mの平坦地を中心に、その西方一段下った長さ16mの平坦地（西ノ段）、及び南側の二段の帯郭からなっている。猶、西ノ段には石塁が残存している。

ロ　南の丸　中の丸から谷をへだてた南方丘陵上の部分で、その山頂から北面して三段の平坦地が存在し、西側の所々に石塁が残存している。又、井戸跡二ケ所(一ノ段と二ノ段)、及び中世城跡には珍らしく城門の礎石が残っている。しかし、東側は砕石場となり破壊が著しい。

ハ　北の丸　中の丸北側の低く延びた尾根上に南北60～70m、巾10～20mの平坦地が存在する。城主の館跡の可能性が考えられる。

(2)　保存状態

砕石場のために東側が破壊されているが、城門の礎石等中世城跡には珍らしい遺構が存在し、保存のための対策が望まれる。

(3)　城　主

中世、この附近を支配した土豪三谷氏の居城と伝える。

『三谷氏系図』（萩藩閥閲録143による）

山手銀山城主

杉原匡信┬理興┬直良
　　│　　├女　有地美作守室
　　│　　└盛重┬女　有地美作守室
　　│　　神辺城主├元盛
　　│　　　　├金盛
　　│　　　　└常佐
　　│
　　├三谷
　　├光重┬重吉
　　│　　└重信　備州長和城主
　　├高須
　　└元重

※備州長和城……当城のことと思われる

3. 甲谷（とうだに）城跡（図3）

《所在地》　福山市熊野町

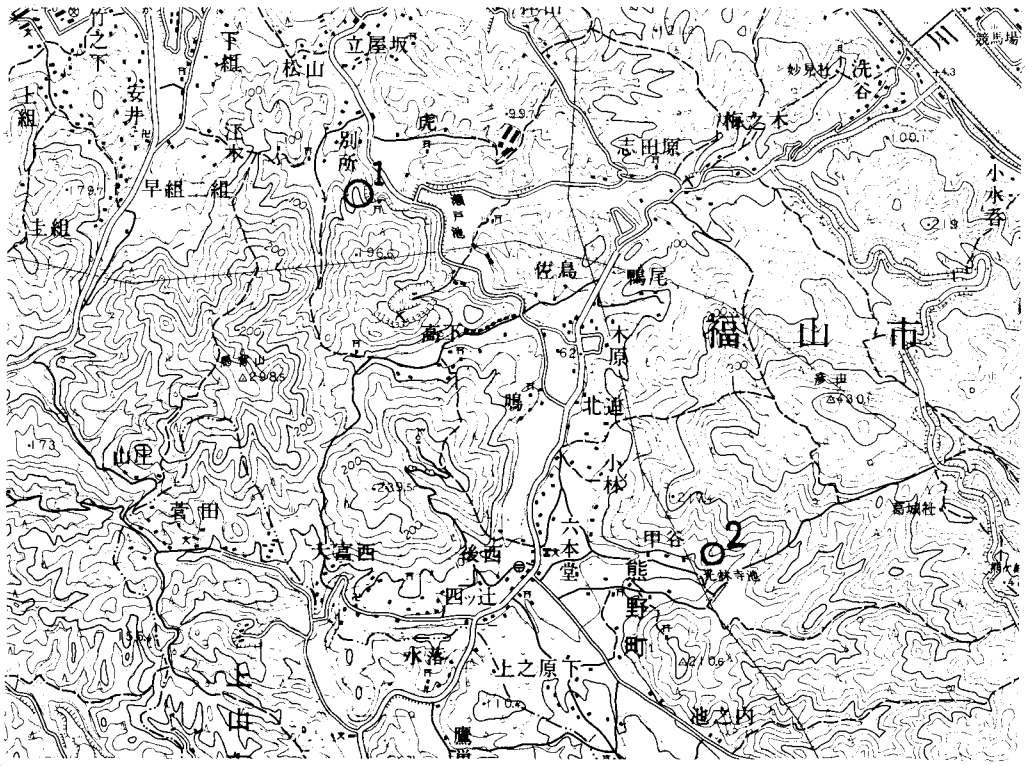
(1)　現　状

熊野町六本堂の東、光林寺池の北側に所在する中世山城跡で小規模ながら良くまとまっている。

イ　本丸　山頂に存在する二段に分れた平坦地で東側は高さ約2mの土塁によってかこまれている。上段は東西13m、南北15m、下段は長さ25.6m、巾33mで、高低差は約50cmである。

ロ　二の丸　本丸の西側に高低差6mをへて三段の平坦地が存在する。上段6×13m。中段3×5.5m。下段6×13m。

ハ　三の丸　二の丸より西方に50m下ったところにある長さ6m、巾13mの平坦地、この南端に城門があったようである。



地図②　1. 別所城跡　　2. 甲谷城跡（1：5万 福山）

ニ　空堀A　本丸の東北に巾5～6 m、深さ2～1 mの空堀が3条存在し、東北の山続きを断っている。

ホ　空堀B　二の丸と三の丸の間に2条存在し、底を通路として利用している。巾6.5 m深さ2～1 mを計る。

（2）　保存状態

良好である。

（3）　城　主

中世熊野町を支配した渡辺氏一族の居城という。又、一説には渡辺氏に滅ぼされた宮近門民部左衛門信元の居城とも伝える。

4.　銀山城跡（図4）

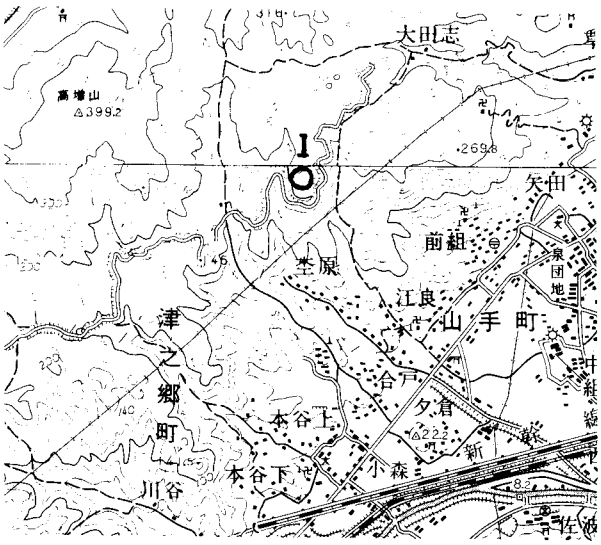
《所在地》　福山市山手町

（1）　現　状

山麓に山陽道の通る交通の要地に築かれた中世山城で標高230 mの高地に所在する。

イ　本丸　山頂に北から南に三段に連なった細長い平坦地が存在する。一ノ段は当城の最高所にあたり、南北77 m、巾20～12 mの平坦地。この段の中央よりやや北側に直径7 mの窪地が存在し、井戸跡と推定される。又、この窪地より25 m南に5ケの方形の切石が残り建築物の礎石と考えられる。二ノ段は一ノ段の南に高低差2 mで接っした南北40 m、巾25～20 mの平坦地。この段の南西端には中世山城としては珍らしい城門の礎石と考えられる方形の切石が残っている。三ノ段はその南に高低差0.7 mで接っした長さ19 m、巾19 mの方形の平坦地である。

ロ　二の丸　本丸の東側に8ケの平坦地が存



地図③　銀山城跡附近（1：5万 福山・井原）

在する。一ノ段は東西３０ｍ、南北１５ｍのダ円形の平坦地で二の丸の最高所にあたる。本丸との高低差は約１０ｍで空堀（巾５ｍ、深さ２ｍ）によって本丸と画されている。この空堀は底を道として利用したと考えられ、堀底は小道となって三ノ段（本丸）に通じている。二ノ段、三ノ段は各々１０×１５ｍ、１０×７ｍの半円型の平坦地。四ノ段は巾１９ｍの帯郭状の平坦地で、一、二、三ノ段の南側を囲んでいる。又、この段の南側には７ｍにわたって野面積（のづらづみ）の石垣が残っている。五、六、七、八ノ段は各々６×２２ｍ、１４×４ｍ、５×２ｍ、１５×２ｍの三日月型の平坦地である。猶、各段の高低差は２～３ｍである。

ハ　北面　本丸北側は、一ノ段の北に堀切りが存在したと思われるが現状ではそれを確認することはできない。本丸から１０ｍ下って巾１０ｍ位の平坦地が北方に続いている。

ニ　その他　本丸一ノ段の西側に一ケ所、三ノ段の南西にも空堀をへて二ケの平坦地が存在する。ただし、略測は行なっていない。

（2）　保存状態

きわめて良好である。又、歴史的、城郭史的価値も大きいと思われ、史跡指定が望まれる。

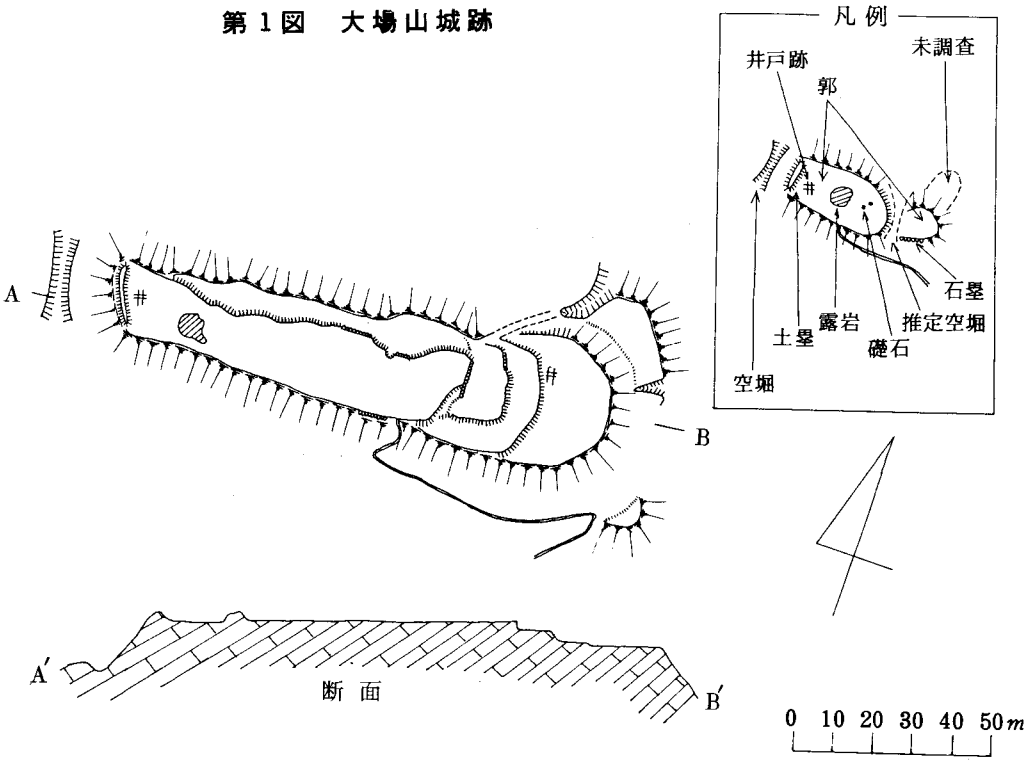
（3）　城　主

中世、備南で最も有力な豪族杉原氏の居城と伝える。戦国時代、当城主であった杉原理興、同盛重はのちに神辺城主となり、備南の盟主的存在となった。

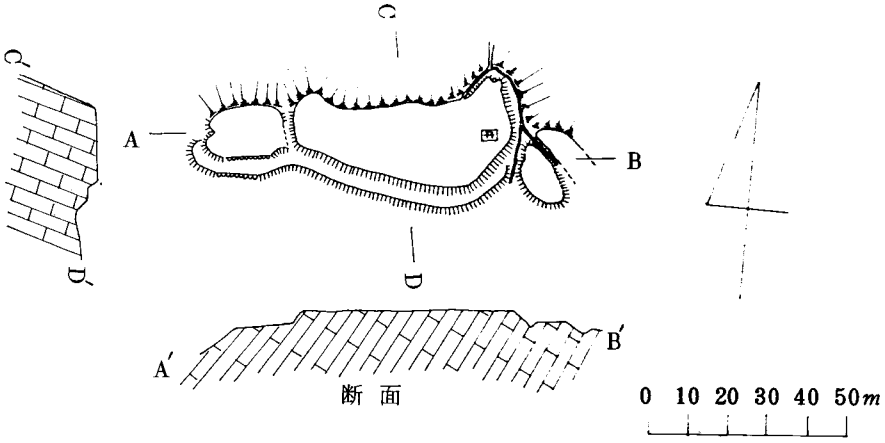
（文責　　田口　義之）

この報告は、1973年7月.ガリ版印刷にて調査参加者のみに配布したものの再録である。　（編集者注）

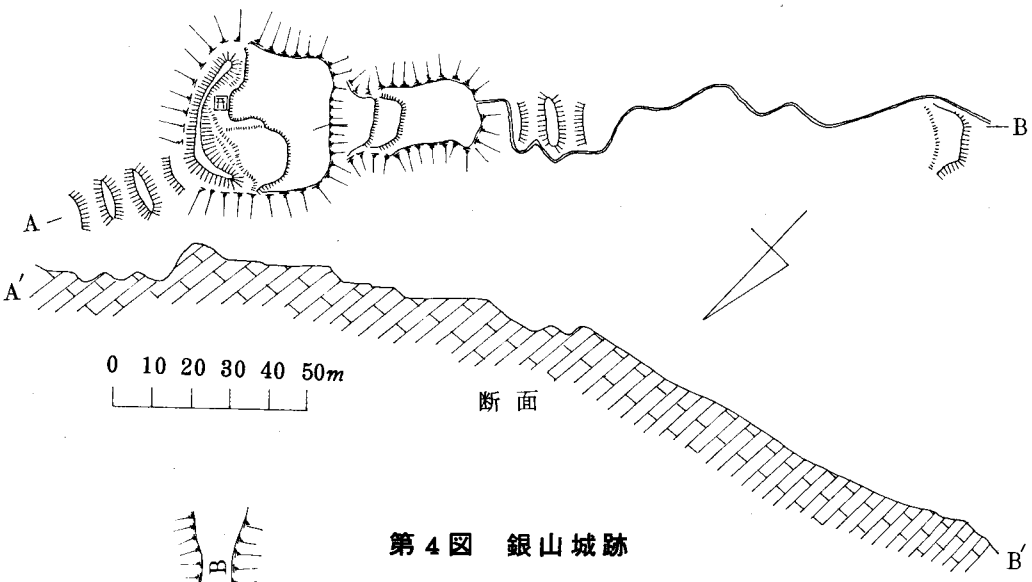
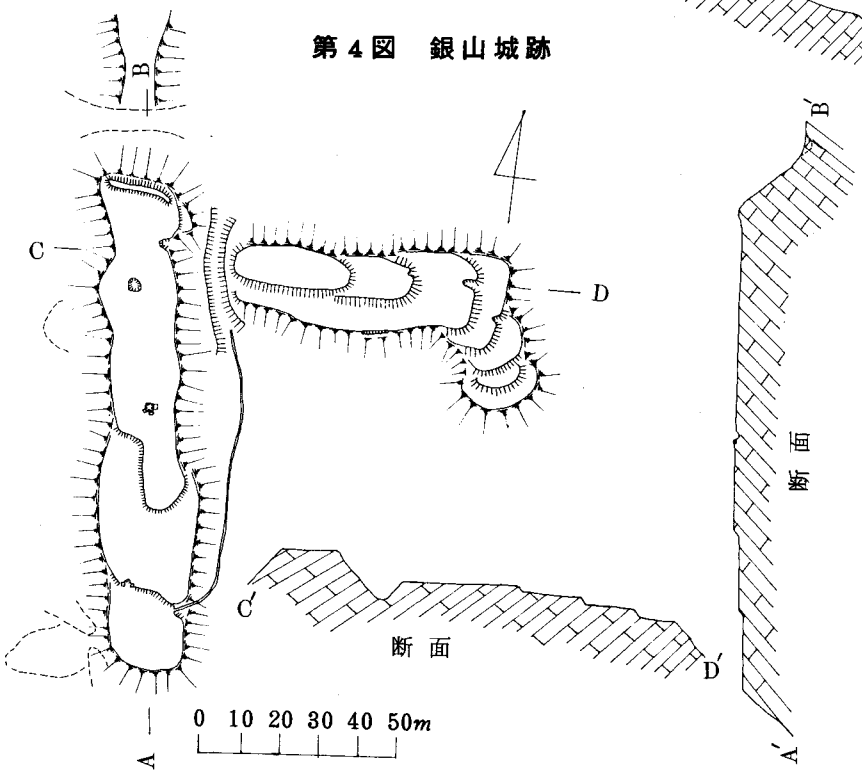
第１図　大場山城跡



第２図　別所城跡中の郭



第3図　甲谷城跡



第4図　銀山城跡